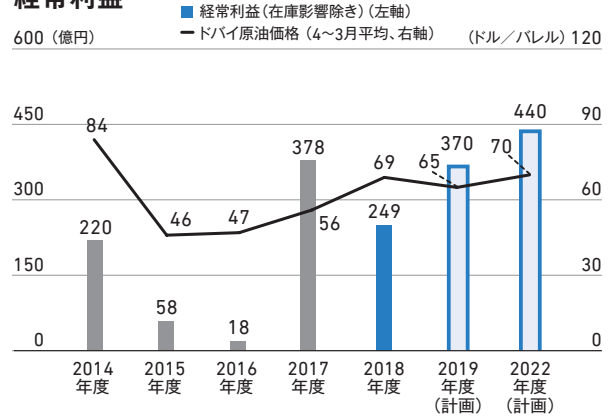


石油事業 (精製・販売)



PETROLEUM BUSINESS

経常利益



強み

- コーカー能力増強、アライアンス推進により製油所の競争力を強化
- マイカーリース事業を核とし、燃料油のみに依存しない収益体制

IMO規制による環境変化やキグナス石油向けの供給などの収益機会が存在

国際海事機関(IMO)は、2020年1月より船舶用燃料に含まれる硫黄留分を現在の3.5%から0.5%まで引き下げる規制の強化を行います。この規制により、従来、船舶用燃料として使用していた高硫黄C重油の需要が減少し、硫黄留分の低い低硫黄C重油の需要が高まることが想定されております。石油関連業にとっては、高硫黄C重油の需要減への対応と低硫黄重油の安定供給が課題となっています。

当社グループでは、IMO規制による環境変化をチャンスととらえ、規制が導入される2020年よりも前倒して堺製油所の重質油熱分解装置(コーカー)を増強し、加えて千葉製油所の直接脱硫装置を活用することで、高硫黄C重油を生産せず、低硫黄C重油を増産する体制を構築いたします。

また、2020年頃より、資本業務提携を結んでいるキグナス石油へ燃料油供給を開始します。国内の燃料油需要が減少していく中で、当該供給の開始により、2019年度の国内販売数量は前年比111.8%を見込んでおります。

原油処理能力40.0万バレル/日

※事業提携に基づく出光昭和シェル石油グループ(昭和四日市石油)からの3.7万BD相当の製品、半製品の供給を含む
※2019年3月31日時点

四日市製油所8.6万バレル/日

・出光昭和シェル石油グループ(昭和四日市石油)と事業提携
・当社シナジー10億円/年(2017年4月~)

大都市圏

千葉製油所17.7万バレル/日

・JXTG千葉製油所とコスモ石油千葉製油所を結ぶパイプライン完成(2018年~)

堺製油所10.0万バレル/日

↓
2次装置投資による競争力強化
・2010年コーカー稼働開始
・製品付加価値向上

2018年度実績

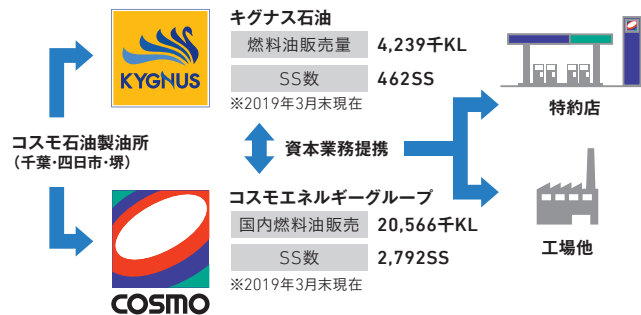
国内の需給改善による石油製品の適正マージンを確保するも、製油所の定期修繕や一部不具合による装置停止及び、将来定期修繕費用の引当影響などにより在庫影響除き経常利益は249億円(前年比-129億円)となりました。

2019年度見通しに関して

2019年度は石油製品の適正マージンを確保し、昨年度発生した製油所の一部不具合影響の解消により、在庫影響除き経常利益は370億円(前年比+121億円)を見込んでおります。

キグナス石油とのアライアンスによる競争力強化

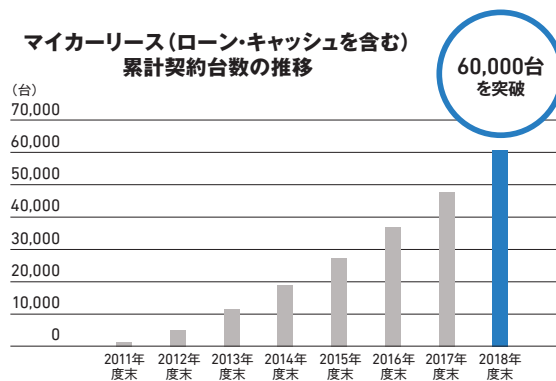
- 2017年2月キグナス石油との資本業務提携契約を締結、2017年5月に株式の20%取得
- 2020年頃をめどに、キグナス石油へ燃料油供給を開始
- 燃料油供給のみならず、業務提携も視野に入れ、協議・検討を進める



カーライフ事業の強化

当社グループは燃料油のみに依存しない収益体制を構築すべく、個人向けカーリース事業「マイカーリース」を展開しております。2011年より開始したマイカーリースはサービスステーションでの燃料油割引システムや、国産の全メーカーから車種を選べるのが好評で、累計契約台数は2018年度末で60,579台となりました。36兆円といわれる巨大なカーライフ市場において、1日当たり約50万台の来客頻度を誇るサービスステーションというインフラ、「ココロも満タンに」の思いを共有するスタッフ、約433万人のカード会員という強みを活かして高機能、高効率なビジネスモデル

を創造していきます。



「コスモでんき」の販売開始

成長戦略の一つであるホームライフ市場・地域エネルギー市場への参画、事業展開をめざし、家庭用電力「コスモでんき」の販売を2019年度より開始いたしました。当社グループのこれまで蓄積してきた知見と販売ノウハウ、全国各地にあるサービスステーションを用

いた販売拠点を組み合わせることにより将来の価値を創出してまいります。

みんなにやさしい
コスモでんき